

この夏ハ、花の盆渡、下巻をわわわお中恵送下す中、
まこと有難うございます。いつそなからの師恩、感謝
は言えどもつとすことばでさせぬ。いま昔年か一人空
食してありますが、この昔年か読んで、夢中の一気な読
了した、と申しとあります。

それから、これは例のアレテナの報告ですが、産警張浦
の某化又今いよいよ折、読たまたま、夜のリホとのこ
とより、あの小説はあまり評判がよくない、とすし
らつたような顔をしてみせし。私は産警をとりま
かりません。その時、歌頭を買って拝見するくらい
でしたか、その、ほんの時たま清んかやあか、やは、花の
盆渡の如き。全彩には愛しい感じをうけます。
そこ、もつとよく勉強をししてみようと、十日ほど前から、
若干の無理をおかして、産警を購読することにし、
いま毎日拝見しているところあります。そのうちこの

小説の秘密をだれ見するつもりであります。

私の変名の時代小説、第一作から、諸君クラブに十二月ま
にします。後継、というのかそれです。同流では、大いに
売れましてあげますよ、なんと厄災にいらるくれていますか、
黒いところ出ますか否か。いすかにせ、変名のころゆえ
四五年はかかるでありますよう。
詩壇人の私に對する陰の工作（糧道を断つ依頼）
は依然インケンきめまるそのよう。私は文字通り孤
立無援、なすすべを知らぬほどであります。私か
ついでに同じ雑誌に書くと、たちまち匿名の投書か
殺倒し、ついに私のその雑誌からしめ出さる、という
ことになります。

目には見えない敵です。これは論争のしようもなく、
折衝把握するのみです。これは自害された話人、日
本の一歩にまたありません。然し、山嵐は木をきた

える、そうですから、私はむしろこのことを非常中はたの
しく思っています。

協会の、現代は選集には、あせらく、私の詩は永久
に選集に入らぬことには否きましよう。何たる、公署、
か、世の中といふものは万事こころしたものであろうと思つてあり
ます。

後世の文壇は史家の足踏によろ。あるはこの尸実
と見るのみあることかあるかと思ひます。——これは、死
活のたのしみ、というわけであります。

今日秋らしい、爽やかな天気です。私の通屋にすわわ
かな日あしはいいです。先金かといふと、いふ
と、秋の味さかといふ、あか女を想像したから、とある
か、ま。

十月二十一日

江口標一

江口標一 先生 函丈

十号、小中台町公便六八号

十月二十五日

江口標一